



第4回 アメリカンフットボール U-19 世界選手権 2016 ハルビン大会

報告書



公益社団法人

日本アメリカンフットボール協会

第4回 アメリカンフットボール U-19 世界選手権大会 （報告）

国際アメリカンフットボール連盟(IFAF: International Federation of American Football)が主催する「第4回 U-19 世界選手権大会」は、2016年6月29日(水)～7月10日(日)、中華人民共和国ハルビン市で開催された。

大会には7カ国が参加、ランク上位 4 カ国をグループ A(アメリカ、カナダ、メキシコ、オーストリア)、下位3カ国をグループ B(日本、オーストラリア、中国)、に分け、それぞれのグループでトーナメント戦を行い、1位～7の暫定順位を決める。その順位の4位と5位を入れ替え、再び上位4カ国、下位 3 カ国で順位決定トーナメント戦を行い、1位～7位を決定するという方式をとった。尚、空席になる8位との対戦は対戦相手の不戦勝とした。

グループリーグ4位となったオーストリアが下位グループへ、5位となった日本が上位グループへ進み、それぞれのグループで順位決定戦に臨むこととなった。

グループ戦1位アメリカは同5位日本を 50-20 で破り、同2位のカナダは3位のメキシコを 28-21 で退け決勝戦に駒を進めた。決勝で対戦したカナダとアメリカ。カナダが終始リードする展開、徐々に点数差を広げ、危なげない戦いぶりで前回王者アメリカに 24-6 と完勝。2 大会ぶりの優勝を飾った。

3位決定戦に臨んだメキシコと日本、メキシコは日本のミスから先制点を挙げ、一度同点に追いつかれたものの、追加点を挙げ、24-7で勝利し二大会連続の銅メダルを獲得した。

以下、5位には決定戦でオーストラリアを 43-13 で下したオーストリア。7位は中国という結果であった。

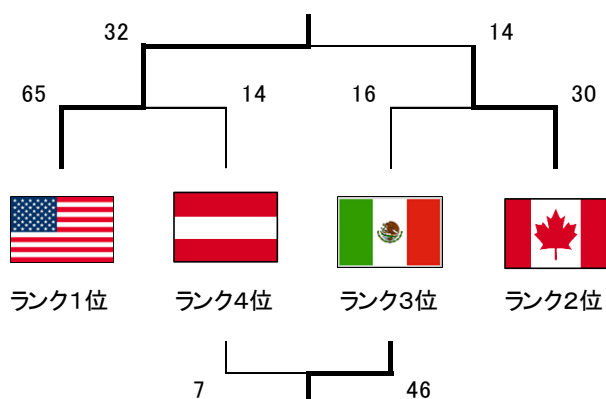
【最終順位】

優勝:カナダ、 準優勝:アメリカ、3 位:メキシコ、4 位:日本、5 位:オーストリア、6 位:オーストラリア、7 位:中国、

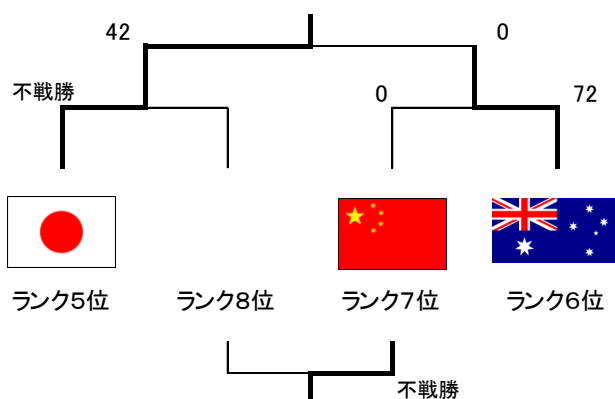
試合結果

【グループ戦】

[グループA]

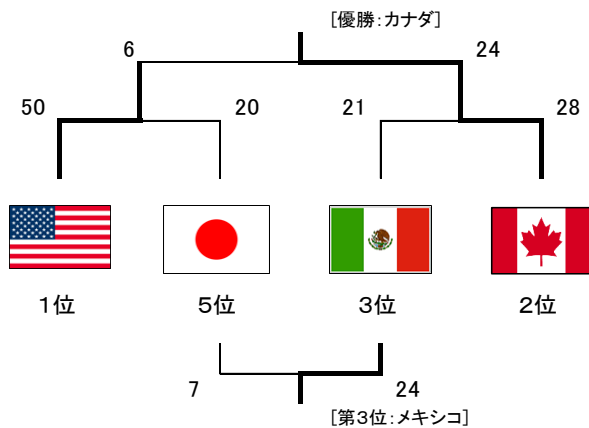


[グループB]

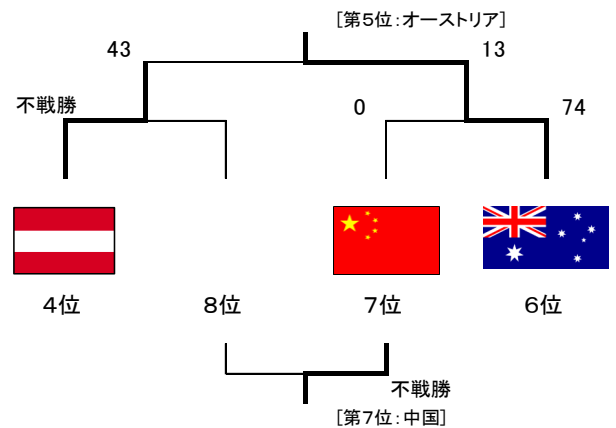


【順位決定戦】

[グループA]



[グループB]



【U-19 日本代表チームの試合結果】

第1試合(6月29日)

不戦勝

第2試合(7月2日)

グループ戦 GroupB	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	22	13	0	7	42
オーストラリア代表	0	0	0	0	0

第3試合(7月7日)

順位戦 準決勝	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	0	6	6	8	20
アメリカ代表	6	3	21	20	50

第4試合(7月10日)

順位戦 3位決定戦	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	0	7	0	0	7
メキシコ代表	7	3	0	14	24

U-19 日本代表 山崎 隆夫 監督(大阪産業大附属高等学校 アメリカンフットボール部監督)

(今大会を振り返って)

選手の成長は凄く感じた。技術的なことはもちろん人間的なところも最後はきっちりとしていた。(ハルビンに来て)中国人の素晴らしさを感じた。大会的にはすごく良かった。

(今大会の参加意義)

結果は4位だったが、上のレベルの国と同じ土俵で戦えたので、次のステップとしてもう少し上のステージを狙えるような大会になったと思う。結果としては満足していないけど、次につながる大会になったと思う。

U-19 日本代表 キャプテン RB 元山 伊織(早稲田大学2年)

初めは最初はみんなどちらかというと消極的で、自分がキャプテンになった時はチームが一つになっていないと感じました。(日本での)強化合宿やハルビンでの練習など色々な経験があってみんなが一つになりました。最後のメキシコ戦は結果的に負けてしまいましたが、みんな楽しそうにプレイしていたので、僕らとしては良い経験になったし良い大会だったと思います。これからは各々がライバルになりますけど、この経験を生かして、次のステージに生かしていきたいと思います。



GAME REPORT

【第2試合】

ーU-19 日本代表が初戦のオーストラリア戦に 42 対 0 で勝利！ー

現地時間 7 月 2 日(土)※日本時間同日、中華人民共和国ハルビン市で開催されている第 4 回 IFAF アメリカンフットボール U-19 世界選手権大会が行われ、U-19 日本代表がU-19 オーストラリア代表と対戦し、42 対 0 のスコアで勝利しました。グループ B に属する U-19 日本代表は、オーストラリア、中国と同組。次戦は 7 月 7 日で、3 日に行われるグループ A の U-19 アメリカ代表対 U-19 カナダ代表の勝者と顔を合わせます。

なお、この試合の U-19 日本代表ゲーム MVP には、パス 2 捕球で 79 ヤード、2TD を記録した WR 小倉 豪(日本大学 1 年)が選ばれました。

現地時間 7 月 2 日(土) 15 時 56 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	22	13	0	7	42
オーストラリア代表	0	0	0	0	0

ゲームサマリー

日本のレシーブで始まったこの日の試合、日本は WR ブレナン 翼(早稲田大学 1 年)の 92 ヤードキックオフリターンタッチダウンが飛び出しいきなり 7 点を先制する。なおも次のオーストラリアのドライブをスリーアンドアウトで止めた日本は、敵陣 34 ヤードから始まった最初のプレイで QB 室井 正道(日本大学 1 年)から高地 駿太郎(早稲田大学 2 年)へのタッチダウンパスがヒット。試合開始わずか 1 分 11 秒で 14 対 0 とリードを奪った。

勢いに乗る日本は、オーストラリアの攻撃を日本陣内 45 ヤードでパントに抑えると、自陣 6 ヤードでボールをキャッチした WR 木村 和喜(立命館守山高等学校 3 年)が敵陣 49 ヤードまで好リターンを披露。このチャンスを、QB 室井から WR 小倉 豪(日本大学 1 年)への 31 ヤードタッチダウンパスにつなげると、2 点コンバージョンも成功させ、第 1Q で 22 対 0 と大きくリードした。

さらに、第 1Q 終了間際に自陣 18 ヤード地点で攻撃権を得た日本は、QB 室井のパスを軸に敵陣へ侵入。最後は、ゴール前 12 ヤードで RB 元山 伊織(早稲田大学 2 年)がエンドゾーンに持ち込み 7 点を加点了。続くオーストラリアの攻撃では、自陣 21 ヤードまで攻め込まれたが、DB 永井 雄太(早稲田大学 1 年)がインターセプト。これで自陣 24 ヤードから攻撃権を奪取した日本は、R 中野 直樹(日本大学 1 年)の 27 ヤードランで一気に敵陣 49 ヤードへ侵入すると、2 プレイ後に QB 室井から右サイドを走る WR 小倉へ 48 ヤードタッチダウンパス。トライフオーポイントに失敗したが、35 対 0 と 35 点差がついたため、前半残り 2 分 2 秒から試合は時間が止まらないランニングタイム計時(※)となった。

日本は後半、QB 小林 優之(日本体育大学 2 年)と荒木 優也(立命館大学 1 年)をそれぞれ起用するが共にインターセプトを献上してしまう。第 3Q は無得点に終わったが、第 4Q には自陣 40 ヤード地点からの攻撃で RB 藤

原 裕貴(関西大学 2 年)が 35 ヤードを走り一気に敵陣 25 ヤードへ。すると、元山と藤原の両 RB のラン攻撃でゴール前まで迫り、最後はゴール前 1 ヤードで元山が自身 2 つ目のタッチダウンランを決めてダメを押した。

※35 点以上得点差がついた場合、時計を止めずに時間を流すという特別ルール。得点差が 35 点未満になった時には再度正式計時に戻る。

■オーストラリア戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

U-19 日本代表 山崎 隆夫監督(大阪産業大附属高等学校)

初戦を勝って安心したが、内容としては良くない。特にディフェンスは、結構アサインミスしてファーストダウンを結構取られたり、オフェンスも第 2QB と第 3QB がインターセプトされている。反省しないといけないことがたくさんある。ただ、結果もスコアも良かったし、全選手を起用できたから良かった。

(オーストラリアの印象)大きいし、少し荒っぽい。それは思った通りで、向こうが荒っぽいプレイをしてきてものらないよう選手には言ってきたので、その辺はよく我慢してくれた。要所で向こうが反則を何回もしてくれた。正直者が馬鹿を見ない試合で良かった。(今日の試合で良かった点)立ち上がりのキックオフリターンタッチダウン。あれで、(チームの)緊張が解けていいムードで入れた。7 点のアドバンテージで試合が始まったから、すぐく全体が落ち着いた。

(次戦に向けて)今日の試合はタックルが決まっていたので、次の試合もしっかりと決められるようにすること。アサインメントミスなど簡単なミスを失くしたい。

U-19 日本代表 WR 小倉 豪(日本大学 1 年)

(MVP の感想について)本当に嬉しいです。

(オーストラリアについて)ファーストシリーズは苦戦すると言われていたけど、最初のキックオフリターンタッチダウンで良いムードを作れたので良かったです。(オーストラリアのサイズに対抗するために)カバーが甘いと思っていたので、スピードで抜こうと思っていました。

U-19 日本代表 RB 元山 伊織(早稲田大学 2 年)

結果的に勝ったことは良かったですけど、オフェンスであれば反則があり、ディフェンスでもアサインメントミスが目立った。後半に点数が少なくなったのでまだまだ課題が残る内容でした。

(自身は)2 つのタッチダウンを取れましたけど、プレイに迷いがあってまだまだ及第点にも及ばないレベルでした。次の試合で活躍したいです。

■主なスタッツ

得点経過			
1st	11:46	JPN	7-0 ブレナン翼 92yd Kickoff Return (江本 幹 kick-Good)
	10:49	JPN	14-0 高地駿太郎 34yd pass from 室井正道 (江本 幹 kick-Good)
	05:00	JPN	22-0 小倉 豪 31yd pass from 室井正道(ブレナン翼 run -Good)
2nd	9:56	JPN	29-0 元山 伊織 12yd run (江本 幹 kick-Good)
	2:44	JPN	35-0 小倉 豪 48yd pass from 室井正道(江本 幹 kick-No Good)
4th	03:09	JPN	42-0 元山 伊織 1yd run (江本 幹 kick-Good)

日本	チーム成績	オーストラリア
29-325	オフェンス回数-総獲得ヤード数	47-149
13-130	ラン回数-獲得ヤード数	25-67
195	パス獲得ヤード数	82
16-9-2	パス回数-成功回数-被インターセプト	22-14-2
13	ファーストダウン回数	11
6-39	ペナルティ回数-喪失ヤード数	8-72
0-0	ファンブル回数-喪失回数	2-1
13:27	ボール支配時間	34:33

日本 主な個人成績

選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	被インターセプト	被サック
室井 正道（日本大）	10-6	174	3	0	0
荒木 優也（立命館大）	5-3	21	0	1	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1 回平均	最長
元山 伊織（早稲田大）	6	40	2	6.7	12
藤原 裕貴（関西大）	4	46	0	11.5	35
中野 直樹（日本大）	3	44	0	14.7	27
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1 回平均	最長
小倉 豪（日本大）	2	79	2	39.5	48
若松 佳汰（関西大）	2	49	0	24.5	27
ブレナン 翼（早稲田大）	2	26	0	13.0	14
高地 駿太郎(早稲田大)	1	34	1	34.0	34
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターセプト	
花牟禮 佑哉（立命館大）	3	0	1	0	
北尾 峻一（立命館大）	2	0	1	0	
平岡 峻（慶應義塾大）	1	0	1	1	
寺岡 芳樹（関西学院大）	1	0	0	0	
宮川 泰介（日本大）	1	1	0	0	





2 キャッチ・79yd・2TD を挙げ、日本代表 MVP に輝いた#3WR 小倉 豪（日本大）



開始直後の 92yd キックオフリターン TD はチームを勢いづかせた。#11WR ブレナン翼（早稲田大）



主将の#9RB 元山伊織（早稲田大）は 6 回のキャリアで 2TD を挙げた



【上】日本の守備陣、要所でゲインを許さず、オーストラリアの攻撃を完封。

【左上】この日のリーディングタックラーは#99DL 花牟禮 佑哉（立命館大）

【左】#2QB 室井正道（日本大）のパスは 174yd、3 TD を獲得

【第3試合】

-U-19 日本代表が 3TD 奪うもアメリカに 20 対 50 で完敗 3 位決定戦へ-

現地時間 7 月 7 日(木)※日本時間同日、中華人民共和国ハルビン市で開催されている第 4 回 IFAF アメリカンフットボール U-19 世界選手権大会が行われ、U-19 日本代表が U-19 アメリカ代表と対戦し、20 対 50 のスコアで敗れました。敗れた U19 日本代表の次戦は 10 日で、U-19 カナダ代表対 U-19 メキシコ代表の敗者と 3 位決定戦を行います。

なお、この試合の U-19 日本代表ゲーム MVP には、2 インターセプトを記録した DB 高口 宏起(日本大学 1 年)が選ばれました。

現地時間 7 月 7 日(木) 13 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
アメリカ代表	6	3	21	20	50
日本代表	0	6	6	8	20

ゲームサマリー

コイントスで勝った日本がレシーブを選択して始まったこの日の試合、日本は最初のドライブでスリーアンドアウトで終わる。しかし、次のアメリカのドライブで、守備陣が奮起。敵陣 27 ヤードの第 2 ダウン 6 ヤードでファンブルを誘発し、これをリカバー。アメリカ陣 21 ヤードで攻撃権を奪取した。だがこの好機では得点を奪えなかった。両チームともその次の攻撃ではパントに終わると、日本は第 1Q 残り 1 分 57 秒に 6 ヤードのタッチダウンランで先制を許した。それでも日本は、2 点コンバージョンを阻止した。

6 点のビハインドを負った日本は、第 1Q 終了間際に QB 室井 正道(日本大学 1 年)が自陣 45 ヤードの第 2 ダウン 10 ヤードでインターセプトを献上。このピンチを 31 ヤードの FG につなげられ、0 対 9 と点差を離された。

中々ボールを進められない日本だったが、DB 高口 宏起(日本大学 1 年)が相手のパント体系からのパスを敵陣 36 ヤードでインターセプト。25 ヤードまでリターンする。このチャンスにゴール前 1 ヤードまで進んだ日本だったが、フォースダウンギャブルで QB 室井がエンドゾーンに飛び込むも得点ならず。攻撃権を喪失したが、ここでも再び DB 高口がインターセプト。前半残り 1 分 13 秒、守備に助けられた日本の攻撃陣はすぐさま、QB 室井が WR 小倉 豪(日本大学 1 年)へ 17 ヤードタッチダウンをヒットし一発回答。エクストラポイントは失敗するも、6 対 9 で前半を折り返した。

第 3Q に入ると、日本はアメリカの攻撃陣に翻弄されてしまう。後半最初のドライブをタッチダウンにつなげられると、

さらに第 3Q 残り 3 分 55 秒にもタッチダウンパスを奪われ、6 対 23 と引き離されてしまった。

それでも諦めない日本は、自陣 43 ヤードから始まった攻撃で、QB 室井から WR 高地 駿太郎(早稲田大学 2 年)へ 57 ヤードのタッチダウンパス。しかし、エクストラポイントキックはブロックされ、得点は 12 対 23。

続くアメリカの攻撃を敵陣 18 ヤードでパントに抑えると、PR 木村 和喜(立命館守山高等学校 3 年)がアメリカ陣 14 ヤードまで戻すナイスリターンを披露。アメリカの反則と RB 中野 直樹(日本大学 1 年)のランでゴール前 6 ヤード進んだが、第 2 ダウン 6 ヤードで QB 室井が痛恨のファンブル。これをリカバータッチダウンされ、12 対 30 と突き放された。

さらに日本は次の敵陣 44 ヤードからの攻撃で、QB 室井がインターセプトを献上。これをタッチダウンにつなげられた。エクストラポイントキックはブロックして、スコアは 12 対 36。スリーポゼッション差に広げられた日本だったが、第 4Q 残り 10 分 19 秒、敵陣 40 ヤードからの攻撃で QB 室井から RB 藤原 裕貴(関西大学 2 年)へスクリーンパスが決まり、これを RB 藤原がエンドゾーンまで運びタッチダウン。続く 2 点コンバージョンも成功させた。

20 対 36 と追いつけた日本は、キックオフでオンサイドキックを選択。しかし、このキックはアウトオブバウンズとなり、攻撃権奪取ならず。逆に、第 4Q 残り 8 分 41 秒、自陣 28 ヤードから攻撃が始まったこのピンチをタッチダウンにつなげられ、20 対 43 に突き放されると、同残り 3 分 18 秒にもタッチダウンを許して万事休した。

日本はパスで 201 ヤードと、アメリカの 205 ヤードとそんな色なかったが、ランで 7 ヤード対 270 ヤードと地上戦での攻防で明暗が分かれる形となった。

■ U-19 日本代表 山岸 隆夫監督(大阪産業大附属高等学校)

最終的に点差はついたけど、最後まで勝ちにこだわった結果だから、点差ほど差はなかった。アメリカと同じ土俵で試合ができるようになったということは、良い試合ができたと思う。オフェンスもディフェンスも要所で良くやってくれた。前は異次元のチームとの試合だったけど、同じレベルとの戦いだったので、前回大会の負けとは違う。選手にはお疲れ様、良くやったと言いたい。楽しむことができた。

■ U-19 日本代表 DB 高口 宏起(日本大学 1 年)

(MVP の感想について) MVP 自体は嬉しいけどチームとして勝利できなかったことは悔しいです。ずっとアメリカを倒すことを目標に練習してきたので、勝てなかったことが本当に悔しいです。

(アメリカについて) 個々では勝てないと分かっていたのでチームで絶対に勝つということを目指していました。前半は戦えたけど、後半は疲れて集中力が切れたところで相手にずるずるやられる場面があったので、次の試合では修正したいと思います。

(次戦に向けて) 次の相手がどこであろうと、メダルを取って日本に帰りたいです。

■主なスタッツ

得点経過			
1st	1:57	USA	6-0 Lewis 6yd Run (Ogwuegbu Run-No Good)
2nd	7:05	USA	9-0 Fagg 31yd Field Goal
	1:13	JPN	9-6 小倉 豪 17yd pass from 室井正道(荒木優也 run -No Good)
3rd	9:24	USA	16-6 Ennis 23yd Pass from Stone (Fagg kick-Good)
	3:55	USA	23-6 Lewis 25yd pass from Stone (Fagg kick-Good)
	3:47	JPN	23-12 高地駿太郎 57yd Pass from 室井正道(元山伊織 kick-Blocked)
	1:41	USA	30-12 Coleman 94yd Fumble Return Run (Fagg kick-Good)
4th	10:40	USA	36-12 Lewis 1yd Run (Fagg kick-Blocked)
	10:19	JPN	36-20 藤原裕貴 40yd Pass from 室井正道(木村和喜 Pass-Good)
	8:41	USA	43-20 Lewis 19yd Run (Fagg kick-Good)
	3:18	USA	50-20 Overman 2yd Run (Fagg kick-Good)

日本	チーム成績	アメリカ
44-234	オフェンス回数-総獲得ヤード数	78-475
14-7	ラン回数-獲得ヤード数	51-270
227	パス獲得ヤード数	205
30-11-3	パス回数-成功回数-被インターセプト	27-13-2
10	ファーストダウン回数	21
3-17	ペナルティ回数-喪失ヤード数	12-133
1-1	ファンブル回数-喪失回数	1-1
14:31	ボール支配時間	33:29

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	被インターセプト	被サック
室井 正道 (日本大)	24-9	188	3	2	0
小林 優之 (日本体育大)	3-2	39	0	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1 回平均	最長
元山 伊織 (早稲田大)	8	14	0	1.8	5
藤原 裕貴 (関西大)	2	5	0	2.5	3
室井 正道 (日本大)	2	-8	0	-4.0	0
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1 回平均	最長
高地 駿太郎(早稲田大)	2	74	1	37.0	57
阿部 拓朗 (関西学院大)	2	39	0	19.5	20
藤原 裕貴 (関西大)	1	40	1	40.0	40
小倉 豪 (日本大)	1	17	1	17.0	17
中野 直樹 (日本大)	1	14	0	14.0	14

勝部 樹（関西学院大）	1	6	0	6.0	6
元山 伊織（早稲田大）	1	6	0	6.0	6
ブレナン 翼（早稲田大）	1	5	0	5.0	5
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターセプト	
濱口 裕哉（立命館大）	1	0	1	0	
小澤 優太（法政大）	1	0	1	0	
高口 宏起（日本大）	0	0	0	2	



この日2インターセプトの活躍を見せたDB 高口弘起（日本大）が日本代表 MVP に選ばれた。



WR 高地駿太郎(早稲田大)は2 キャッチ・74yd・1TD



QB 室井正道(日本大)はパスで3TD を挙げた



日本代表のランプレーは僅か 7yd に抑えられた



第1Q #14LB 江本 幹（立命館大）がファンブルリカバーで攻撃権を奪取

【第4試合】

ーU-19 日本代表がメキシコに敗れて 4 位 優勝はカナダー

現地時間 7 月 10 日(日)※日本時間同日、中華人民共和国ハルビン市で開催されている第 4 回 IFAF アメリカンフットボール U-19 世界選手権大会が行われ、U-19 日本代表が U-19 メキシコ代表と対戦し、7 対 24 のスコアで敗れました。敗れた U-19 日本代表は、4 位となりました。

なお、この試合の U-19 日本代表ゲーム MVP には、8 回捕球 80 ヤードを記録した TE 勝部 樹(関西学院大学 1 年)が選ばれました。

現地時間 7 月 10 日(日) 13 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
メキシコ代表	7	3	0	14	24
日本代表	0	7	0	0	7

ゲームサマリー

日本のレシーブで始まったこの日の試合、日本は自陣 24 ヤードから始まった最初のドライブで、今大会初先発の QB 荒木 優也(立命館大学 1 年)が、WR 高地 駿太郎(早稲田大学 2 年)、WR 阿部 拓朗(関西学院大学 1 年)らに次々とパスを決め敵陣へ侵入。しかし、ゴール前 15 ヤードの第 4 ダウン 3 ヤードでフォースダウンギャンプルに失敗して攻撃権を失った。

それでも、次のメキシコの攻撃をスリーアンドアウトに抑えた日本。自陣 31 ヤードからの攻撃でファーストダウンを 1 回更新するも、敵陣 46 ヤード、第 2 ダウン 7 ヤードの場面でリードオプションからのピッチが乱れファンブル。そのままメキシコにリターンタッチダウンを献上し、先制点を許した。

その後のメキシコの攻撃では、重厚なラン攻撃に苦しめられた日本だったが失点せずパントに抑えた。自陣 2 ヤードで攻撃権を得た日本は、ここからロングドライブを開始。QB 荒木が、TE 勝部 樹(関西学院大学 1 年)、WR 河波 正樹(Seaquam Secondary School3 年)、WR 小倉 豪(日本大学 1 年)ら異なるレシーバーに次々とパスを通し、敵陣に侵入。そして迎えたゴール前での第 2 ダウン 4 ヤードで RB 元山 伊織(早稲田大学 2 年)がタッチダウンランを決め、第 2Q 残り 3 分 23 秒に 7 対 7 の同点に追いついた。

しかし日本は、相手 QB のランを軸にゲインを許すと、前半終了残り 20 秒に 24 ヤードのフィールドゴールを決められ、7 対 10 で前半を折り返した。

日本は、後半最初のメキシコのドライブをスリーアンドアウトで止めると、自陣 45 ヤードからブレナン 翼(早稲田大学 1 年)が敵陣 32 ヤードまで戻すナイスパントリターンを披露。絶好のフィールドポジションを得たが、メキシコ陣 17

ヤードでの第3ダウン7ヤードの場面、QB 荒木の WR 木村 和喜(立命館守山高校3年)を狙ったパスが痛恨のインターセプト。攻撃権を喪失してしまった。

それでも日本は、次のメキシコの攻撃でファンブルを誘発するとそれをリカバリーして、攻撃権をゲット。しかし、ここでも得点には結びつけられなかった。結局、第3Qはお互いに得点できず、勝負は第4Qへ。

第3Q終了間際から攻めていた日本は第4Q、敵陣42ヤードまで攻めたが、QB 荒木がインターセプトを献上。その直後の50ヤードから始まったメキシコの攻撃では、2つのランプレイでゴール前9ヤードまで進まれると、タッチダウンパスを奪われた。

10点のビハインドを負った日本は、自陣12ヤードからの攻撃でQB 荒木がこの日自身3つ目のインターセプトをされて、攻撃権を喪失。このピンチにタッチダウンを奪われ、7対24と引き離された。

スリーポゼッション差をつけられた日本は、1本でもタッチダウンを返したいが、試合残り5分46秒から始まったドライブでゴール前12ヤード進んだが、4連続パス失敗に終わり万事休した。

■アメリカ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

U-19 日本代表 山崎 隆夫監督(大阪産業大附属高等学校)

(メキシコ戦を振り返って)

(第1Qの)リードオプションのファンブルからタッチダウンを奪われたのが痛かった。それとゴール前でインターセプトされたのも痛かった。ディフェンスはよく踏ん張っていた。ランが出ないからパスをあれだけ投げればインターセプトされるのはしょうがない。課題が浮き彫りになった試合だった。ランニングプレイをもっと出さないといけない。スプレッドオフenseだからラインをタイトにしているけど、外国と同じことをしていたら日本はランは出ない。絶対に変えないといけない。

U-19 日本代表 TE 勝部 樹(関西学院大学1年)

(MVPの感想について)(TEの)若松が怪我をして、若松の分も頑張ろうと思っていました。当初からパスオフenseになると分かっていたので、自分がチームを勝たせるという気持ちでプレイしていました。

(メキシコ戦について)今日の試合は最初から厳しい試合になると分かっていたけど、その中でもオフenseで勝とうと言っていました。序盤は良いテンポで進めていったけど、途中からインターセプトや小さいミスをして自滅をしてしまいました。その中でも、チームとしては今日が一番良かったと思います。

U-19 日本代表 キャプテン RB 元山 伊織(早稲田大学2年)

初めは最初はみんなどちらかというと消極的で、自分がキャプテンになった時はチームが一つになっていないと感じました。(日本での)強化合宿やハルビンでの練習など色々な経験があってみんなが一つになりました。最後のメキシコ戦は結果的に負けてしまいましたが、みんな楽しそうにプレイしていたので、僕らとしては良い経験になったし良い大会だったと思います。これからは各々がライバルになりますけど、この経験を生かして、次のステージに生かしていきたいと思います。

■主なスタッツ

得点経過			
1st	03:13	MEX	7-0 Gonzalez 49yd Fumble Return Run (Lianes kick-Good)
2nd	03:23	JPN	7-7 元山伊織 4yd Run (室井正道 kick-Good)
	00:20	MEX	10-7 Lianes 24yd Field Goal
4th	08:51	MEX	17-7 Romero 9yd Pass from Rosado (Lianes kick-Good)
	05:46	MEX	24-7 Rosado 8yd Run (Lianes kick-Good)

日本	チーム成績	メキシコ
62-299	オフェンス回数-総獲得ヤード数	46-230
21- -27	ラン回数-獲得ヤード数	34-226
326	パス獲得ヤード数	4
41-29-3	パス回数-成功回数-被インターセプト	12-5-0
17	ファーストダウン回数	12
6-53	ペナルティ回数-喪失ヤード数	4-45
2-2	ファンブル回数-喪失回数	3-2
27:31	ボール支配時間	20:29

日本 主な個人成績

選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	被インターセプト	被サック
荒木 優也 (立命館大)	41-29	326	0	3	6
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1 回平均	最長
荒木 優也 (立命館大)	8	-57	0	-7.1	-1
元山 伊織 (早稲田大)	6	17	1	2.8	4
中野 直樹 (日本大)	4	16	0	4.0	8
藤原 裕貴 (関西大)	2	-1	0	-0.5	1
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1 回平均	最長
勝部 樹 (関西学院大)	8	80	0	10.0	17
小倉 豪 (日本大)	6	93	0	15.5	38
阿部 拓朗 (関西学院大)	4	37	0	9.3	15
高地 駿太郎 (早稲田大)	3	49	0	16.3	29
木村 和喜 (立命館守山高)	2	8	0	4.0	5
魚谷 海仁 (立命館宇治高)	1	18	0	18.0	18
若松 佳汰 (関西大)	1	16	0	16.0	16
河波正樹 (Seaquam Secondary HS)	1	12	0	12.0	12
ブレナン 翼 (早稲田大)	1	12	0	12.0	12

選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターセプト
小澤 優太（法政大）	2	0	2	0
家田 泰成（早稲田大）	1	1	0	0
平岡 峻（慶應義塾大）	1	0	1	0
宮川 泰介（日本大）	1	0	1	0



8 回のレシーブ、80yd ゲインの活躍を見せた TE 勝部樹（関西学院大）が日本代表 MVP に選ばれた。



この日唯一の TD を挙げた RB 元山伊織(早稲田大)



2 回、30yd のパントリターン。WR ブレナン翼（早稲田大）



初のスターターとなった QB 荒木優也(立命館大)はパスで 326yd ゲイン



メキシコ QB Garcia はランで 157yd ゲイン、1TD の活躍を見せた

第4回 アメリカンフットボールU-19 世界選手権大会
日本代表選手 45 名 コーチ・スタッフ 22 名

■選手(45 名)

No	Pos	氏 名	よみがな	所 属	学年	身長	体重
1	QB	小林 優之	こばやし まさゆき	日本体育大学	2	162	62
2	QB	室井 正道	むろい まさみち	日本大学	1	176	75
3	WR	小倉 豪	おぐら ごう	日本大学	1	183	80
4	DB	西 勇貴	にし ゆうき	日本大学	2	171	76
5	RB	中野 直樹	なかの なおき	日本大学	1	177	84
6	RB	藤原 裕貴	ふじわら ゆうき	関西大学	2	173	78
7	DB	小田原 利之	おだわら としゆき	日本大学	2	172	77
8	QB	荒木 優也	あらき ゆうや	立命館大学	1	177	78
9	RB	元山 伊織	もとやま いおり	早稲田大学	2	172	82
10	DB	永井 雄太	ながい ゆうた	早稲田大学	1	177	76
11	WR	ブレナン 翼	ぶれなん つばさ	早稲田大学	1	184	82
13	DB	長井 友和	ながい ともかず	関西大学	2	179	77
14	LB	江本 幹	えもと つよし	立命館大学	1	177	85
15	WR	高地 駿太郎	たかち しゅんたろう	早稲田大学	2	180	77
16	DL	清水 滯寿	しみず れいじゅ	近畿大学	1	177	90
17	DB	家田 泰成	いえだ たいせい	早稲田大学	1	174	72
18	WR	魚谷 海仁	うおたに かいと	立命館宇治高	3	169	72
19	WR	木村 和喜	きむら かずき	立命館守山	3	172	70
20	DB	北尾 峻一	きたお しゅんいち	立命館大学	1	169	69
21	DB	高口 宏起	たかぐち ひろき	日本大学	1	173	78
22	DB	荒尾 亮汰	あらお りょうた	立命館大学	1	181	74
27	LB	小澤 優太	おざわ ゆうた	法政大学	1	180	85
33	LB	平岡 峻	ひらおか しゅん	慶應義塾大学	1	174	88
41	LB	前野太一	まえの たいち	関西大学	2	168	85
44	LB	文字 大河	もんじ たいが	立命館宇治高	3	180	88
45	LB	大竹 泰生	おおたけ たいせい	関西学院大学	1	180	92
47	LB	松下 芳崇	まつした よしたか	日本大学	1	171	83
50	OL	富田 優生	とみた ゆうせい	関西大学	2	180	117
51	OL	安武 直毅	やすたけ なおき	日本大学	1	179	117
52	OL	柳生 蒼	やぎゅう あおし	立命館大学	1	180	105
55	OL	宝谷 俊哉	ほうたに しゅんや	立命館大学	1	182	104
57	OL	香取 大勇	かとり たいゆう	早稲田大学	1	181	112
75	OL	松永 大誠	まつなが たいせい	関西学院大学	1	182	113
77	OL	矢矧 弘道	やはぎ ひろみち	日本大学	1	185	110
78	OL	永福 大悟	ながふく だigo	立命館宇治高	3	180	113
80	WR	河波 正樹	かわなみ まさき	Seaquam Secondary School	3	165	73
83	WR	阿部 拓朗	あべ たくろう	関西学院大学	1	179	79
85	TE	勝部 樹	かつべ みき	関西学院大学	1	180	87
88	TE	若松 佳汰	わかまつ けいた	関西大学	1	186	87
90	DL	浅野 大地	あさの だいち	箕面自由学園	3	177	103
91	DL	宮川 泰介	みやがわ たいすけ	日本大学	1	184	95
92	DL	楠元 凌太	くすもと りょうた	立命館大学	1	175	120
95	DL	濱口 裕哉	はまぐち ゆうや	立命館大学	1	178	110
97	DL	寺岡 芳樹	てらおか よしき	関西学院大学	1	178	108
99	DL	花牟禮 佑哉	はなむれ ゆうや	立命館大学	1	183	98

■スタッフ(22名)

役 務	氏 名	よみがな	所 属
監督	山 嵯 隆 夫	やまざき たかお	大阪産大附属高校
ヘッドコーチ	大 橋 誠	おおはし まこと	オービック
オフェンスコーディネーター	須 永 恭 通	すなが たかゆき	ノジマ
QBコーチ	秋 山 峻	あきやま しゅん	日本体育大学
WR/TEコーチ	板 井 征 人	いたい まさと	関西大学
RBコーチ	岸 野 公 彦	きのの きみひこ	エレコム神戸
OLコーチ	米 倉 輝	よねくら あきら	立命館大学
ディフェンスコーディネーター	武 田 真 一	たけだ しんいち	大阪産大附属高校
DLコーチ	木 戸 宗 子 郎	きど そうじろう	立命館大学
LBコーチ	有 澤 玄	ありさわ げん	LIXIL
DBコーチ	中 西 隆 彦	なかにし たかひこ	金沢大学
アシスタントコーチ	力 野 邦 人	りきの くにひと	LIXIL
チームドクター	立 石 智 彦	たていし ともひこ	シルバースター
ヘッドトレーナー	小 山 貴 之	こやま たかゆき	日本大学
トレーナー	洞 口 一 也	ほらぐち かずや	LIXIL/関東学院大
学生トレーナー	高 橋 浩 生	たかはし こうき	国土舘大学 3年
学生トレーナー	松 本 亜 彩 美	まつもと あさみ	日本大学 3年
学生マネージャー	春 山 幸 輝	はるやま こうき	日本大学 3年
学生マネージャー	大 橋 祐 子	おおはし ゆうこ	慶應義塾大 3年
学生マネージャー	和 智 優 音	わち ゆうの	LIXIL
General Manager	清 水 裕 司	しみず ゆうじ	JAFA
Chef De Mission	山 田 晋 三	やまだ しんぞう	JAFA

■ 第4回 IFAF アメリカンフットボール U-19 世界選手権 大会概要

- 1 大会名称 IFAF U-19 世界選手権大会 2016
(IFAF U-19 WORLD CHAMPIONSHIP 2016)
- 2 主 催 国際アメリカンフットボール連盟 (International Federation of American Football)
- 3 主 管 Local Organizing Committee
- 4 日程 大会日程 2016 年 6 月 29 日 (水) ～7 月 10 日 (日)
遠征日程 2016 年 6 月 28 日 (火) ～7 月 12 日 (火)
- 5 開催地 中華人民共和国、ハルビン市
- 6 出場国 7 ヶ国
アメリカ合衆国 (前回優勝)、
カナダ、メキシコ、(アメリカ大陸代表)
オーストリア (ヨーロッパ大陸代表)
オーストラリア (オセアニア代表)
日本 (アジア代表)
中国 (開催国)
- 7 出場資格 2016 年 12 月 31 日現在で 16 歳～19 歳
(1997 年 1 月 1 日～2000 年 12 月 31 日生まれ)
- 8 チーム編成 選手 45 名
- 9 対戦方式
ランク上位 4 カ国をグループ A (アメリカ、カナダ、メキシコ、オーストリア)、下位 3 カ国をグループ B (日本、オーストラリア、中国)、に分け、それぞれのグループでトーナメント戦を行い、1 位～7 の暫定順位を決める。
その順位の 4 位と 5 位を入れ替え、再び上位 4 カ国、下位 3 カ国で順位決定トーナメント戦を行い、1 位～7 位を決定するという方式をとった。
尚、空席になる 8 位との対戦は対戦相手の不戦勝とする。
- 10 試合形式 NCAA ルール 12 分/Q 計時
- 11 日本代表チーム編成
 - (1) 主管 日本アメリカンフットボール協会(JAFA:Japan American Football Association)
 - (2) 協力 日本学生アメリカンフットボール協会
日本高等学校アメリカンフットボール協会

U-19 日本代表 チーム概要



主管 公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協力 日本学生アメリカンフットボール協会、日本高等学校アメリカンフットボール協会

遠征日程 【遠征】 6 月 28 日(火) ～ 【帰国】 7 月 12 日(火)

出国便 (中国南方航空)

6 月 28 日(火) 13 : 05: 関西空港発 CZ632 便
15 : 05 ハルビン国際空港着

帰国便 (中国南方航空)

7 月 12 日 (火) 08 : 10 ハルビン国際空港発 CZ631 便
12 : 05 関西空港着
(東京組) 14 : 50 関西空港発 JL224 便
16 : 05 羽田空港着

国内最終練習 6 月 24 日 (金) ～ 6 月 27 日 (月) 於：立命館大学 びわこくさつキャンパス

関連ウェブサイト

大会公式サイト (英語)

<http://www.ifaf2016u19.com/>

日本代表オフィシャルサイト

<http://japan.americanfootball.jp/>

日本代表公式 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/AFJNT>

活動写真サイト

<https://www.flickr.com/photos/119552036@N06/sets>

日本協会公式サイト

<http://www.americanfootball.jp>

■ 写真





金氏 IFAF 上級副会長、開会式での挨拶

